

平成26年度事業報告及び決算について

(第31年度)

平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで

I 公1 (森林、林業の啓発と緑化事業会計)

森林やみどりは、地球温暖化の防止、局地的豪雨の頻発等に対応した山地災害の防止、生物多様性や景観の保全、環境教育や森林セラピー等による健康づくりの場としての利用、緑豊かで潤いのある日常生活環境の確保など多様な機能を持っており、国民が安全で安心して暮らすことのできるようそれら機能を十分に発揮し得る森林・みどりづくりが求められています。

健全な森林づくり、森林・林業の再生、緑豊かな生活環境づくり等について、県民に正しく理解してもらい、参加を促すための様々な取り組みが必要です。

「長野県ふるさとの森林づくり条例」の規定により長野県が定めた「森林づくり指針」に沿って、行政、NPO、地域住民との様々な形での協働を通じて多くの県民の参加を得ながら、地域の実情やニーズにあった森林の整備や身近な生活環境の緑化等に関する実践的活動に重点をおいて事業の推進に努めました。

第67回全国植樹祭の開催準備諸委員会等に積極的に関わり、基本計画等の策定に協力しました。

1 情報誌等による広報、普及宣伝

森林・林業及び環境緑化に対する県民の更なる理解を深めるため、次の事業を実施した。

(1) 情報誌の発行等

ア 情報誌の発行等

基金業務、森林・林業及び環境緑化等について、県民の理解を深めるため、4月の緑化シーズンに併せてグリーンキャンペーンのほか、機関誌の発行、その他参考資料の配布を行った。

イ 緑の情報サービスの推進（ホームページによる情報発信）

当基金が関わる各種行事、絵本のPR、緑の募金の使途報告など、ホームページを用いて情報を発信し、広く県民の森林づくりや環境緑化への実践参加を促進した。

ウ 森林と水をテーマにした絵本づくり

子供たちがふるさとの森林と川との関わりを深めることができるよう、「森林と水の物語」を作成する。緑と水の森林ファンド事業（(公社)国土緑化推進機構）の助成を受け、千曲川上流地域を対象に調査し、原案を作成した。

2 県民の集い等の開催

(1) ふるさとの森づくり県民の集い（第65長野県植樹祭）の開催

6月7日、諏訪郡富士見町において、長野県、富士見町、中部森林管理局等と共催して、「つなげよう命の森を未来まで」をテーマに広く一般県民約1,400人参加のもとに第65回長野県植樹祭を開催した。

(2) 森林教室の開催

森林・林業に関する知識を普及啓発するため、県植樹祭に併せ、諏訪郡富士見町のパノラマリゾート天空の花園において、長野県森林インストラクター会の協力を得て「春の森林教室」を開催した。参加者を公募したところ、東信、南信、中信、北信各地区より110名の参加があり、4台のバスを運行した。参加者には、植樹活動、自然観察会、山の手入れ方法・森の状況説明等の体験を通じ、好評のうちに森林・林業への理解を深めていただくことができた。

(3) 地区緑化推進団体による森林の感謝祭などの開催

「緑と水の森林ファンド事業（(公社)国土緑化推進機構）」を活用して、県下11地区緑化推進団体の実情に即し、森林の感謝祭、植・育樹など体験型の行事等を実施した。

3 講演会の開催等

(1) 緑に親しむ集い

樹木観察や木の実を使った工作など様々なふれあい体験を通じ、県民が森林や森林の恵みに親しむとともに関心を深めることができるよう、県林業総合センターの体験学習施設を利用して、県林業総合センター学習展示館と共催実施し、森林整備作業、自然観察などを取り入れた様々な体験型の集いに327組730名の参加があった。

(2) 森林フォーラム

～「林業県 長野」へ 木材を利用して元気な山づくり～森の価値を高めるための先進事例に学ぶ」を開催テーマに、(協)兵庫木材センターが行っている川上から川下までの連携の取組み等を学ぶ報告・意見交換会を長野県、林業関係団体等と共催して実施した。

・平成26年11月22日塩尻市「レザンホール」 参加者約 250名

(3) 野鳥愛護思想の啓発

小・中学校を対象に、児童・生徒の野鳥を愛し緑を育む心を養うため、野鳥観察、巣箱製作・架設など、野鳥愛護の実践活動を行う小・中学校7校に対して信州の緑と野鳥を守る会を通じて助成した。

4 森林づくり等実践参加の促進

(1) 林業関係等コンクールの開催

林業関係等コンクールを長野県、林業関係団体等と協調して実施し、健全な森林づくりや環境緑化等に係る様々な活動や成果を顕彰し、県民の実践参加を促進した。

ア ふるさとの森林づくり賞及び林業関係ポスター等コンクールの開催

森林づくり、森林環境教育などに優れた功績があった方の顕彰や小・中学校、高等学校の児童・生徒への環境緑化思想及び野生鳥類の保護の高揚を図るためのコンクールを長野県、林業関係団体と共催で実施した。(表彰式 1月15日)

- ・ふるさとの森林づくり賞 長野県緑の基金理事長賞 5団体
- ・林業関係ポスター等コンクール 長野県緑の基金理事長賞 21名

イ 木工工作コンクールの開催

小・中・盲・ろう・養護学校の児童生徒が木に触れあい木を身近に感じ愛着を持ちながら森林の大切さや役割を学び木の文化を大切にすることを願い、身近な木材を活かして自由な発想で創作した木工工作作品のコンクールを長野県木材青壮年団体連合会と共催で実施した。(表彰式 11月22日)

- ・木工工作コンクール 長野県緑の基金理事長賞 1名

(2) 森林環境教育指導者研修会

子どもたちが自然に親しみつつ森林の重要性などについて体験を通じて学べるよう、教育指導者である教職員(本年度は南信地域20人)を対象に、樹木検索方法、森林環境教育等に関する研修会を10月21日に下伊那郡松川町の松川青年の家で実施した。

(3) 学校林の整備・活用

みどりの少年団等森林活動支援事業

児童生徒が行う森林活動を普及推進するため、林業改良指導員がコーディネーターとなり、みどりの少年団等がNPOや地域の指導者等と連携して学校林整備等を行う団体に助成した。

- ・岡谷市立神明小学校他14校

5 都市緑化等の環境整備

(1) 公園等公共施設の緑化

ゴルフ場の協力を得た(公社)ゴルフ緑化促進会の緑化協力金を受けて、公共施設の緑化を実施した。

| 区分 | 地区 | 事業主体 | 実施場所・樹種 |
|---------|----|------|-----------------------------|
| 第73・74回 | 佐久 | 御代田町 | 御代田町 浅間しゃくなげ公園 しゃくなげ 30本 |

(2) 小中学校敷地内の緑化

(公社)国土緑化推進機構(ローソン緑の募金)の助成を受け、学校環境の緑化を通じて、青少年への森林環境教育を推進することを目的に、小・中学校の敷地内及び周辺的环境緑化を実施した。

事業名 夢の合校憩いの場づくり事業 実施主体 大田市立美麻小中学校
植栽樹種 オオヤマザクラ、ヤマザクラ等14本を植栽した。

(3) 大震災被災地の環境緑化等

(公社)国土緑化推進機構が都道府県緑化推進連絡協議会とともに実施する東日本大震災復興事業を導入し、大震災で被災した栄村で6月14日に震災復興祈念植樹を行った。

- ・栄村トマトの国他
- ・植栽樹種等 オオヤマザクラ 30本

6 その他

(1) 第67回全国植樹祭の開催準備の促進

第67回全国植樹祭長野県実行委員会、総会に当基金の役員が出席し、基本計画(案)の策定や大会テーマや大会ポスターの選定に関わった。

(2) 国土緑化運動・育樹運動標語の募集

県内の小・中・高生より応募のあった作品155点の中から9点を推薦し、中央審査の結果、平成27年用育樹運動標語に次の2点が特選に選ばれた。

- ・国土緑化運動標語 「今植えた 小さなその芽が 大きな未来」 (小5 福井県)
- ・育樹運動標語 「育てよう 百年先の 緑の輪」 (高1 山口県)

(3) 森の名手・名人の選定

(公社)国土緑化推進機構が選定する平成26年度「森の名手・名人」に長野県からは3名が選ばれ、県内の名手・名人は48名となった。

| 氏名 | 年齢 | 市町村 | 部門 | 内容 |
|-------|----|-----|------|-------|
| 羽根 正憲 | 74 | 大桑村 | 加工 | 木楽器製作 |
| 田中 要 | 65 | 白馬村 | 森づくり | そま師 |
| 柳沢 英治 | 73 | 松本市 | 森づくり | そま師 |

(敬称略)

7 基本財産の運用益

日本経済のデフレ脱却のため、異次元の金融緩和が日銀により実施されたため、国債等の金利は低下したが、急激な円安となったことにより、仕組み債による運用益が生じた。

その結果、当初予算では基本財産の受取利息収入を5,023千円と見積りをしたが、決算額では8,173千余円となった。

8 出捐金の内訳

| | |
|-------------|----------------|
| 平成26年度末 | 5億8,912万5,668円 |
| (前年度よりの増加額) | 18万4,000円) |

<内訳>

- ・ 長野県 150,000,000円 (25.5%)
- ・ 市町村 123,000,000円 (20.9%)
- ・ 民間 316,125,668円 (53.6%)